

●重点プロジェクト① 将来を見据え人を育み、活かすまちづくり【市民力】

人口減少を悲観せず、規模が縮小していくなかでも、本市における市民の暮らしや営みが、いきいきと誇らしいものであるためには、市民の工夫に満ちた向上心あふれる営みが重要になります。

市民がもつ潜在能力を最大限に活かし、その市民力を発揮できる場が数多く存在することで、まちが活力にあふれ、市民はもちろん、本市を訪れる人々にとっても、角田市が魅力的なまちになるよう、人材育成や活躍できる環境の整備を重視し、取り組んでいきます。

■参考施策例

- 地域資源活用型人材育成
 - 課題ごとに実施するワークショップを通じた人材育成・参加者間の連携
- 主体的活動市民の育成(市民提案型まちづくり事業の募集)
- 担い手不足対策(農業、商業、地域の活動など、様々な分野)
- まちづくりに積極的な女性の活躍、男女共同参画
- 学力向上、将来を担う若い世代の育成(学校との連携)

○具体的施策は、庁内プロジェクトチームにより検討

●重点プロジェクト② とともに生き、活かし合うまちづくり【地域共生】

これからのまちづくりにおいては、人口が減少していくなかで、老年人口が増加し、2040年には生産年齢人口を上回ることが予想されており、高齢者だけでなく、若年層や働く世代など全ての世代において、人口減少による影響が懸念されるため、広い意味での共生や共助の精神がより重要になります。

多様な日常生活上の支援体制の連携・充実を図り、地域の支え合いを公的に支え、共助を公助することを通して、市民の生活と地域参加を支援していきます。

■参考施策例

- 地域共生社会^{※1}・地域包括ケアシステム^{※2}
- 各地域での生活・活動の活性化(広義の共生)
- 小さな拠点づくり^{※3} ○子育て支援
- 産科・小児科誘致、持続可能な医療体制
- 多様な主体との連携

○具体的施策は、庁内プロジェクトチームにより検討

●重点プロジェクト③ 地域資源を活かすまちづくり【地域資源フル活用】

本市には、魅力的な地域資源がたくさんあり、それらの魅力を引き出し、連携・協力することで、さらなる賑わいの創出が図れるとともに、地域経済の好循環を生み出します。

本市の産業を守り育てるとともに、既存施設の計画的な利活用を図り、さらに、人、企業、施設の連携を推進することで、本市の新たな魅力を引き出していきます。

■参考施策例

- 農業振興(ビジョンの明確化、角田らしい田園風景)
- 産業振興(企業誘致)、企業・事業者等支援
- 公共交通システムの存続・利便性向上
- 道の駅・Kスポの活用、廃校・既存施設の活用
- スポーツによるまちづくり^{※4}
- 過去の被災経験を教訓とした安全・安心なまちづくり

○具体的施策は、庁内プロジェクトチームにより検討

※1

【地域共生社会】

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

※2

【地域包括ケアシステム】

2025年(令和7年)を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築するもの

※3

【小さな拠点づくり】

小学校区など複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で、分散している様々な生活サービスや地域活動の場などを「合わせ技」でつなぎ、人やモノ、サービスの循環を図ることで、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくろうとする取組み

※4

【スポーツによるまちづくり】

(公財) 笹川スポーツ財団と角田市が包括連携協定を締結し、スポーツを通して地域課題の解決に取り組み、個人の健康や自己実現の追求のみならず、「能動的」で「健全」な地域社会の確立を目指すもの

第3節 重点プロジェクトと分野別施策

1 重点プロジェクトの推進

重点プロジェクトとは、基本構想で定める「まちづくりの基本理念」を踏まえ、10年後のあるべき姿として設定する「都市像」の実現に向けて取り組むべき各種施策を網羅した基本計画を、有機的に連携させながら、重点的かつ優先的に推進するための取り組みを位置付けたものです。

